

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 委員の辞任	1
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	1
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	1
3 機能別委員会の開催とその議題	2
4 分野別委員会の開催とその議題	2
5 課題別委員会の開催とその議題	8
6 若手アカデミーの開催とその議題	9
7 サイエンスカフェの開催	9
8 総合科学技術・イノベーション会議報告	10
9 インパクト・レポート	10
10 記録	14
11 慶弔	14

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
3月1日(水) ～3月2日(金)	AASSA-SCJ Workshop on Role of Science for Inclusive Society (日本学術会議)	大西会長 花木副会長
3月1日(水)	ロシア科学アカデミー極東支部 Valentin Sergienko 会長他 表敬訪問	大西会長 花木副会長
3月2日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
3月6日(月)	科学オリンピック推進会議(第2回) (文部科学省)	花木副会長
3月16日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長

(注) 部会、委員会等を除く。

2 委員の辞任

- 情報学委員会 国際サイエンスデータ分科会 WDS 小委員会
平原 聖文(平成29年3月10日付)
- 電気電子工学委員会 URSI 分科会 電磁波計測(略称A)小委員会
保坂 一元(平成29年3月 2日付)

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) 第二部拡大役員会(第5回)(3月24日)

- ①各種委員会の進捗状況について
- ②総会に向けて
- ③夏季部会について
- ④その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

なし

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) 科学者委員会（第34回）（2月27日）

- ①協力学術研究団体の指定の件（2件）

(2) 国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2016分科会（第1回）（3月2日）

- ①役員の決定について
- ②持続可能な開発目標会議の開催結果について
- ③AASSA地域ワークショップの中間報告
- ④その他

(3) 選考委員会（第15回）（3月9日）

- ① 前回の議事要旨の確認
- ② 補欠の会員候補者の選考について
- ③ 次回改選の方針等について
- ④ その他

(4) 選考委員会 連携会員特別選考分科会（第1回）（3月9日）

- ① 役員の選任について
- ② 分科会の運営について
- ③ 平成29年9月末に任期が満了する会員に係る連携会員候補者の選考について
- ④ その他

(5) 選考委員会 生命科学選考分科会（第1回）（3月13日）

- ① 役員の選任について
- ② 分科会の運営について
- ③ 選考の基本方針について
- ④ その他

(6) 選考委員会 人文・社会科学選考分科会（第1回）（3月23日）

- ① 役員の選任について
- ② 分科会の運営について
- ③ 選考の基本方針について
- ④ その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 心理学・教育学委員会 脳と意識分科会（第8回）（2月24日）

- ①本年の合同シンポジウムについて
- ②マスタープランに基づく社会脳研究センター設立の提言のまとめについて
- ③その他

(2) **社会学委員会 社会福祉学分科会** (第10回) (2月24日)

- ①提言(案)の章立ておよび分担について
- ②その他

(3) **心理学・教育学委員会 社会のための心理学分科会** (第6回) (3月3日)

- ①「心理学が貢献できる」社会とのつながりの領域について
- ②その他

(4) **第一部 総合ジェンダー分科会** (第8回) (3月8日)

- ①前回シンポジウムの振り返り
- ②今後の予定と進め方
- ③その他

(5) **史学委員会 歴史認識・歴史教育に関する分科会** (第6回) (3月8日)

- ①教科書検定制度について②－教科用図書検定調査審議会
上山 和雄(國學院大學文学部教授)
- ②その他

(6) **社会学委員会 東日本大震災の被害・影響構造と日本社会の再生の道を探る分科会** (第10回) (3月13日)

- ①内閣府ヒアリングおよび大熊町現地調査報告
- ②今期のとりまとめについて
- ③その他

(7) **史学委員会 IUHPST分科会** (第7回) (3月13日)

- ①第25回科学史技術史国際会議について
 - (2.0) 評議会(2016年12月開催・橋本評議員出席)報告
 - (2.1) 代表派遣
 - (2.2) 役員候補
 - (2.3) 国際会議に対する日本側の組織体制について
 - (2.4) 国際会議報告準備について
 - (2.4.1) 提出文書作成
 - (2.4.2) 参加者に対する対応
- ②その他

(8) 史学委員会 科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会（第8回）（3月13日）

- ①科学史技術史関連科目の調査について
 - (i) 本件の経過について
 - (ii) 調査・分析の進捗状況
 - (iii) 科学史技術史関連教育・研究者養成に関するヒアリング
 - (iv) 関連シンポジウム企画の検討
- ②シンポジウム「科学者・技術者と軍事研究」に関連して
- ③その他

(9) 言語・文学委員会 古典文化と言語分科会（第7回）（3月15日）

- ①第24期の提言に向けての審議
- ②その他

第二部担当

(1) 食料科学委員会 水産学分科会（第11回）（2月24日）

- ①公開シンポジウム「成熟社会における持続可能な水産業のあり方とその中長期戦略」報告
- ②提言案「わが国における持続可能な水産業のあり方」について
- ③提言「学術研究の円滑な推進のための名古屋議定書批准に伴う措置について」の発出後の状況について
- ④東京オリンピック・パラリンピック食料調達基準に向けた持続可能な水産物のあり方(エコーラベル)について
- ⑤その他

(2) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同 植物科学分科会（第4回）（2月28日）

- ①ABSについて（報告事項）
- ②大型研究計画の現状について（報告事項）
- ③国立大学の在り方検討委員（報告事項）
- ④植物科学の今後のあり方について一とくに若手育成と国際化（審議事項）
- ⑤その他

(3) 心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同 子どもの成育環境分科会（第10回）（2月28日）

- ①シンポジウム「子どもの貧困－成育環境に及ぼすその影響と対策について」の進行、内容等について
- ②その他

(4) **食料科学委員会 水産学分科会** (第12回) (3月1日)

- ①提言案「わが国における持続可能な水産業のあり方」について
- ②その他

(5) **農学委員会・食料科学委員会合同 IUNS分科会** (第6回) (3月7日)

- ①IUNS 理事会報告
- ②次期 IUNS Council Member について、
IUNS Lifetime Award、Living Legend、
Fellow の推薦について (報告)
- ③IUNS 栄養学のリーダーシップ育成国際ワークショップについて
- ④22nd IUNS-ICN2021 に向けての準備状況
- ⑤その他

(6) **基礎生物学委員会・統合生物学委員会 動物科学分科会** (第10回) (3月8日)

- ①提言「国立自然史博物館設立の必要性」のフォローアップについて
- ②その他

(7) **健康・生活科学委員会** (第8回) (3月11日)

- ①シンポジウムの講師紹介
- ②シンポジウムの進行
- ③学術の動向6月号の特集1の執筆について
- ④その他

(8) **健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会** (第5回) (3月11日)

- ①分科会活動のまとめ
- ②その他

(9) **農学委員会・食料科学委員会合同 農芸化学分科会** (第6回) (3月18日)

- ①名古屋議定書関連検討分科会のその後の状況について
- ②公開シンポジウム・サイエンスカフェ開催について
- ③農学委員会・食料科学委員会合同 夏季委員会と市民公開シンポジウムについて
- ④その他
 - (i) 24期に向けての課題整理
 - (ii) その他

(10) **薬学委員会 医療系薬学分科会** (第4回) (3月21日)

- ①「薬学の発展に必要な医療系薬学研究のあり方」に関する提言について
- ②今後の活動計画について
- ③その他

第三部担当

- (1) 土木工学・建築学委員会 大地震に対する大都市の防災・減災分科会（第10回）（2月27日）

①提言案の検討

- (2) 化学委員会 化学分野の参照基準検討分科会（第5回）（2月28日）

①参照基準の取りまとめについて

- (3) 地球惑星科学委員会 IGU分科会（第7回）、地名小委員会（第7回）合同会議（3月2日）

①WSSF 開催に関わる IGU 国内委員会のセッション提案について

②最近の IGU の動静

③地理オリンピックについて

④ICA 日本開催について

⑤地名小委員会提言「地名行政の統合強化と地名委員会の設置」について

⑥日本地理学会春季学術大会での地名標準化に関わるシンポジウムの開催

⑦その他

- (4) 基礎医学委員会・総合工学委員会合同 放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会 研究用原子炉のあり方検討小委員会（第3回）（3月3日）

①記録案について

②その他

- (5) 法学委員会・経済学委員会・土木工学・建築学委員会合同 知的生産者の公共調達検討分科会（第12回）（3月3日）

①提言案についての討議（4）

②その他

- (6) 機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 IUTAM分科会（第4回）、総合工学委員会・機械工学委員会合同 力学基盤工学分科会（第5回）、力学の深化・統合小委員会（第3回）、力学の展開小委員会（第3回）合同会議（3月7日）

①IUTAM 分科会国内対応企画小委員会の設置について（IUTAM 分科会）

②ICTAM2024 について（IUTAM 分科会）

③理論応用力学講演会について（IUTAM 分科会）

④理論応用力学シンポジウムについて（力学基盤工学分科会）

⑤力学の深化・統合化と展開について（力学基盤工学分科会）

⑥その他

(7) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科会
ポストペタスケール高性能計算に資する可視化処理小委員会 (第6回) (3月8日)

- ①「意思の表出 (提言等)」査読状況
- ②北極域「ビッグデータ」を使った研究について
- ③その他

(8) 物理学委員会 IAU分科会 (第8回)、物理学委員会 天文学・宇宙物理学分科会 (第8回) 合同分科会 (3月11日)

- 天文学・宇宙物理学分科会
 - ①24期会員候補者推薦の状況について
 - ②共同利用機関報告
 - ③Athena計画について
 - ④「安全保障と学術に関する検討」についての意見交換
- IAU分科会
 - ①IAU vice president 候補者の推薦
 - ②CAP2018の日本開催決定
 - ③IAU Junior member についてのアンケート回答

(9) 総合工学委員会 原子力事故対応分科会 (第6回) (3月13日)

- ①小委員会からの報告
- ②今後の進め方に関する議論 (提言・報告・記録とそれらの英文版、シンポジウム、学術の動向ほか)
- ③その他

(10) 数理科学委員会 数学分科会 (第4回) (3月21日)

- ①「数理科学と他の科学分野や産業との連携の基盤整備に向けた提言」について
- ②その他

(11) 基礎医学委員会・総合工学委員会合同 放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会 (第3回) (3月21日)

- ①記録「研究炉の長期停止に伴う影響調査」の検討
- ②提言「大学における非密封放射性同位元素使用施設について」の検討
- ③その他

(12) 数理科学委員会 数学教育分科会 (第8回) (3月22日)

- ①次期指導要領について
- ②ICMIの日本代表について
- ③次期の数学教育分科会への申し送りについて
- ④その他

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) 東日本大震災復興支援委員会 エネルギー供給問題検討分科会 (第7回) (2月27日)

- ①報告書たたき台の検討 (担当委員から各々概略説明)
- ②報告書作成に向けた今後の予定
- ③その他

(2) 学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方を考える検討委員会 (第12回) (3月1日)

- ①シンポジウムについて
- ②提言案についての検討
- ③その他

(3) 医学・医療領域におけるゲノム編集技術のあり方検討委員会 (第6回) (3月3日)

- ①論点整理について
- ②シンポジウム開催について
- ③今後の日程について
- ④その他

(4) 放射性核種による汚染に係る環境浄化の基礎科学に関する委員会 (第3回) (3月3日)

- ①意思の表出について
- ②その他

(5) 安全保障と学術に関する検討委員会 (第11回) (3月7日)

- ①意思の表出について
- ②その他

(6) 学術研究推進のための研究資金制度のあり方に関する検討委員会 (第10回) (3月9日)

- ①提言について
- ②その他

(7) 原子力利用の将来像についての検討委員会 原子力発電の将来検討分科会 (第6回) (3月10日)

- ①提言について
- ②その他

(8) 東日本大震災復興支援委員会 汚染水問題対応検討分科会 (第5回) (3月14日)

- ①学術フォーラムの報告（沖先生）
- ②今後（2017年9月終了の予定）の進め方
- ③その他

（9）科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会（第7回）（3月15日）

- ①前回議事録確認
- ②防災・減災政策の国際的展開に関連する動向や国際会議について
- ③11月の国際会議について
- ④その他

6 若手アカデミーの開催とその議題

なし

7 サイエンスカフェの開催

日 時：2月24日（金）15：30～17：00

場 所：淑徳巣鴨中学・高等学校

テーマ：「社会制度の設計と選択」

ゲスト：鈴木 興太郎（日本学術会議連携会員、早稲田大学荣誉フェロー）

コーディネーター：宮川 智香（特定非営利活動法人 WEBREIGO 理事長）

日 時：2月26日（日）15：00～17：00

場 所：カフェ ラモーダ

テーマ：「科学でよみとく食べ物の秘密～みのまわりのバイオテクノロジー～」

挨拶：西澤 直子（日本学術会議連携会員、石川県立大学生物資源工学研究所特任教授）

コーディネーター：南 博道さん（石川県立大学准教授）

日 時：3月5日（日）15：00～16：30

場 所：三省堂書店札幌店ブックス&カフェ UCC

テーマ：「ロボットと ICT が導く農業の未来～現場の知恵を技術に変えて～」

ゲスト：野口 伸（日本学術会議連携会員、北海道大学農学研究院教授）

コーディネーター：西尾 直樹（北海道大学 CoSTEP 特任助教、インタビュアー）

日 時：3月23日（木）19：00～20：30

場 所：3×3 Lab Future コミュニケーションゾーン

テーマ：「都市の温暖化とセミ」

ゲスト：沼田 英治（日本学術会議連携会員、京都大学大学院理学研究科生物科学専攻教授）

8 総合科学技術・イノベーション会議報告

1. 本会議

3月8日 第27回総合科学技術・イノベーション会議 持ち回り開催

2. 専門調査会

なし

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

3月2日	出席
3月9日	欠席
3月16日	出席
3月23日	欠席

9 インパクト・レポート

フューチャー・アースの推進に関する委員会 提言「持続可能な地球社会の実現をめざして —Future Earth（フューチャー・アース）の推進—」 インパクト・レポート

1 提言内容

（背景）

限界的状況に近づきつつあるとされる地球環境の保全と持続可能な地球社会の実現のために、世界の研究者コミュニティと国連機関および資金提供機関などが組んだ国際プログラム Future Earth (FE) が新たに動き出している。この FE では、自然科学と人文社会科学の学際的な研究に加え、科学コミュニティと社会との連携・協働による「超学際 (transdisciplinary)」¹ 研究を重視している。本提言は、日本学術会議による「新しい学術の体系—社会のための学術と文理の融合—」(2003 年 6 月)、「提言：知の統合—社会のための科学に向けて—」(2007 年 3 月)、「提言 持続可能な世界の構築のために」(2010 年 4 月) などのこれまでの提言を更に発展させて、持続可能な地球社会の実現に向けた学際・超学際研究の推進を、科学コミュニティと社会の関係者に強く促すものである。

（提言内容）

(1) 学際・超学際研究推進のための研究・教育体制を構築する

FE の研究推進には、自然・社会・人文科学にまたがる学際研究に加え、社会との協働で

超学際研究推進の体制作りが必要である。また、これらの研究のためのデータの共有や統合的なデータベースの構築を進め、適切な国際的役割分担に従った研究支援体制を構築すべきである。さらに、すべてのレベルでの教育に関しては「提言 持続可能な未来のための教育と人材育成の推進に向けて」（2014 年 9 月）に沿って進めるべきである。

(2) 国際的リーダーシップを果たすための体制を構築する

アジアは、急激な経済成長により地域から地球規模での環境に深刻な影響を与え、社会の課題も集中しており、FE として重要な地域である。特に、進んだ科学技術と環境・開発研究での豊富な経験を有する日本は、FE に国際的リーダーシップを持って取り組み、アジアにおける協働・連携を通して国際社会に発信していかなければならない。これらの国際的な活動を支えるために、FE 国際事務局（東京）およびアジア地域センター（京都）の連携による FE 推進体制の長期的な機能強化が必要である。

(3) 我が国として取り組むべき具体的研究課題を提示する

上記の(1)、(2)に基づいて、これまでの我が国の実績と強みを最大限に活かしつつ、国際的に推進すべき研究課題を以下に例示する。

- ① 長期的視野に立った地球環境の持続性を支える技術・制度の策定
- ② 持続可能なアジアの都市および生活圏の構築
- ③ エネルギー・水・食料連環（ネクサス）問題の同時的解決
- ④ 生態系サービス 2 の保全と人類の生存基盤の確保
- ⑤ 多発・集中する自然災害への対応と減災社会を見据えた世界ビジョンの策定

2 採択年月日

平成 28 年 4 月 5 日

3 社会的インパクト

(1) 政策

・2016 年 11 月：文部科学省科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会第 8 期環境エネルギー科学技術委員会において、フューチャー・アースに対する取り組みの一環として本提言を紹介し、環境・エネルギー分野における当該プログラムの重要性を説き、積極的な反応を得た。

・2016 年 12 月：持続可能な開発目標（SDGs）推進本部により決定された「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」において、科学者コミュニティとの連携の一例として、「フューチャー・アース等国際的取組や国内の科学者コミュニティとも体系的に連携・協働していく。」と記載された。

・2016 年 7 月から 2020 年 3 月までの予定で、Belmont Forum CRA（共同研究活動）Climate Predictability and Inter-Regional Linkage（気候予測可能性と地域間連関）の課題として「季節～10 年規模の地域間連関が気候予測の改善へ向けて持つ潜在的可能性」（略称：InterDec）」(PI：Daniela Matei ドイツ・マックスプランク気象研究所研究員；deputy PI：中村 尚 東京大学教授)が日・中・欧(6 カ国)共同研究として採択され開始されたが、この課題は、提言の内容を踏まえて提案されたものである。

・2017 年 2 月：JST/総合地球環境学研究所共同事業として、日本が進めるべき Future Earth の戦略的課題(JSRA)策定が行われ、提言も同時に参照された。

（２）学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

＜提言と密接に関連して開催された国際会議＞

・2016 年 4 月 25 日：25th KAST International Symposium ‘Future Earth for Sustainable Development Goals in Asia’ (Seoul, Korea). 杉原委員が「提言」の最後にある五つのアジアの課題を英語で紹介し、一定の関心呼んだ。

・2016 年 9 月 26-28 日：「SIMSEA Regional Symposium 2016」(フィリピン、ケソン市)
(上記二つの国際会議では、提言を基にした Future Earth と SIMSEA の日本での取組みが紹介され、具体的な共同研究の可能性が議論された。)

・2016 年 10 月 27 日、「SOLAS in Asia: A Future SOLAS Symposium」(中国、青島)。提言を基にした日本の Future Earth の進捗状況が紹介され、アジアにおいて連携強化が提案された。

・2016 年 12 月 21 日：「Future Earth 国際シンポジウム持続可能な地球社会にむけて - 京都からの挑戦-」京都大学 Future Earth 研究推進ユニット・総合地球環境学研究所 Future Earth アジアセンター共催、Future Earth、JaLTER (日本長期生態学研究ネットワーク) 協賛

・2017 年 1 月 16-18 日：Future Earth International Co-Design Workshop on Earth Observation in support of the Sustainable Development Goals – The case of urban areas in Asia.

・2017 年 2 月：九州大学「決断科学とフューチャーアース」国際シンポジウム開催 九州大学決断科学センター主催、総合地球環境学研究所後援。

・2018 年 9 月 25-28 日に福岡で開催される予定の ISSC(国際社会科学協議会)の第 4 回世界社会科学フォーラム (WSSF2018) の全体テーマ “Security and Equity for a Sustainable World” で Future Earth がひとつの大きな課題となる予定である。

＜提言と密接に関連して開催された国内の会議＞

・2016 年 5 月：地球惑星科学連合 (JpGU) 年次大会。Future Earth セッションで提言を踏まえた議論がなされた。

・2016 年 11 月 4 日：バイオロギングと海洋・大気変動予測の未来 - Sustainability Initiative in the Marginal Seas of South and East Asia (SIMSEA) の推進に向けて」シンポジウム (東大大気海洋研)

・2017 年 1 月 23 日：日本学術会議公開ワークショップ「Future Earth と学校教育：Co-design/Co-production をどう実践するか」 提言も踏まえて、Future Earth の教育での重要性も再確認された。

・2017 年 2 月 21-22 日：「陸と海と人と一里海」シンポジウム (東大大気海洋研) 提言を基にした Future Earth の研究体制をめぐる現状と将来、Future Earth の世界的動向を前提に Future Earth への貢献を意識してプロジェクトが今後取り組まれることが確認され

た。

- ・2017年2月：第1回イオン未来の地球フォーラム 「いま次世代と語りたい未来のことー地球と人の健康ー」
- ・2017年3月2日：千葉大学 Future Earth Kick-off ワークショップ

<提言を受けて開始された活動>

・2016年10月：Future Earth 国内暫定関与委員会の設立準備を開始。提言中の「日本版関与委員会にあたる組織の設立も具体化する必要がある」(p.15)を根拠に、FE 日本コンソーシアムメンバーである国立環境研究所に事務局を置いて国内暫定関与委員会が立ち上げられ、日本版関与委員会設置の検討を進めている。

<提言を引用した学術論文・報告等>

- ・安成哲三、2016：Future Earthー地球と人類の持続可能な未来をめざして、科学通信 リレーエッセイ 地球を俯瞰する自然地理学、科学、岩波書店、vol.86 No.8、p757-759
- ・西條辰義、2017：「フューチャーデザイン」 経済研究 Vol.68, No.1
- ・Kanie, N., 2016: Foresight workshop: Science needs for implementing the SDG framework (18-21April 2016). German Committee Future Earth, Future Earth and SDSN joint workshop
- ・Kanie, N., 2016: "Improving Scientific Input to Global Policymaking: Strategies for Attaining the Sustainable Development Goals". InterAcademy Partnership project, FIRST COMMITTEE MEETING, AUGUST 16 - 17 2016, NEW YORK

4 メディア

- ・朝日新聞 平成28年4月3日 科学の扉 人新世ー人類が地球を変える時代 (人新世を前提とした国際研究フューチャーアースが開始されたことを、紹介している)

5 考察と自己点検

提言は、国内のみならず、国外を含めて、Future Earth の意義を学術コミュニティに発信することには、かなりのインパクトがあったと判断できるが、アカデミア外の社会のコミュニティへの発信としては、まだまだ不十分であると判断される。今後は、この提言を、より分かりやすいかたちで社会に訴えるための工夫と活動がさらに必要であると感じている。

インパクト・レポート作成責任
フューチャー・アースの推進に関する委員会
委員長 安成哲三

10 記録

文書番号	委員会等名	標題	作成日
SCJ 第23期 290307-23030002- 057	第三部「科学技術の光と影を生活者との対話から明らかにする」分科会	「市民との対話から考える科学技術と自動運転システムの未来」	平成29年 3月7日

※本文配布なし

11 慶弔

・慶事

日本学士院賞 3月13日発表

【日本学士院賞・恩賜賞】

長谷川 昭 (元連携会員 (第20-21期))

【日本学士院賞】

荒川 泰彦 (連携会員 (第23-24期)、元会員 (第21-22期))

北村 惣一郎 (元会員 (第20期)、元連携会員 (第21-22期))

高崎 史彦 (連携会員 (第22-23期)、元連携会員 (第20-21期))

戸田 達史 (連携会員 (第22-23期))

長谷川 昭 (元連携会員 (第20-21期))

・ご逝去

岩間 伸之 (いわま のぶゆき) 平成29年3月2日 享年51歳
連携会員 (第23-24期) 大阪府立大学大学院生活科学研究科教授

鈴木 孝仁 (すずき たかひと) 平成29年3月19日 享年62歳
連携会員 (第22-23期) 奈良女子大学理学部教授